



2025年 4月25日
第180号

JR東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 梶田 優一

編集 情宣 担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



イーハトーブ

4月25日号

20年前の4月25日は、私にとって忘れられないし、忘れません。人生の中の大きな節目の日でした。JR福知山線脱線事故が発生し、107名の方々が犠牲になった目でした。犠牲になられた方々に深く哀悼の意を表します。

私はその日に、鉄道の現場に配属となりました。職場の雰囲気も分からない中でしたが、昼休みのテレビに映し出された事故現場の光景と、テレビを食い入るように見ているベテランの先輩方を見て、私自身も身震いしました。私の『始まりの日』は、凄惨な鉄道事故からのスタートでした。

事故から数年後、私は機会あって現地に足を運び、塚口駅から事故現場を通り、尼崎駅まで線路沿いを歩きました。マンションの遺構と献花テントの前では、無念にもお亡くなりになった方々に対して無心で頭を下げ、手を合わせることもできませんでした。

事故調査委員会がまとめた報告書の中で、直接的な原因は運転士によるブレーキ操作が遅れたことによる脱線であること。そしてブレーキ操作が遅れた背景として、厳しい日勤教育や懲戒処分をもとにしたJR西日本の運転士の管理方法が関与した可能性が示唆されています。

事故を起こしたことに對する教育は必要です。しかし労働者へ懲罰的、強制的な手段で再教育すること。それをもって事故防止のための緊張感を喚起する方法は、結果として冷静な判断を失わせる遠因になりかねず、改めなければならぬと思います。

今春社会人として新たにスタートを切った若手は、ちょうど本格的に仕事を始めていく時期でしょう。困難に直面したら、同僚や上司に相談して、適切に判断を下す。そのようなことが当たり前に行ける職場環境があるでしょうか。

私の鉄道のスタート地点は、107名の方々の時が止まったところに位置付いて始まりました。事故を風化させず、教訓にし続けるために、新たな世代にも語っていきます。

(J・Y)

イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちも外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行っていきます。